

参加者募集中の講習・講座のご案内

「森づくり活動スキルアップ講習[健全な森林づくりのための間伐材の搬出]」

今回は、間伐までの技術は身に着けたけれども、搬出方法がわからないという方を対象にさまざまなその場所・環境に合った搬出方法を学びます。活動フィールドなどの現場で活かせる講座です。



- 日時 12月15日(土)10:00～15:00
- 場所 津市白山町地内の森林
(雨天は屋内会場)
- 講師 中勢森林組合
- 定員 20名(先着順)



「木育インストラクター養成講座」

木育の考え方や必要性、木製品を暮らしの中に取り入れる意義を学び、木で創作する心地よさを体験して、子どもたちへの伝え方を考える講座です。木について一歩深く学ぶことができます。

- 日時 平成31年1月19日(土)10:30～16:30
- 場所 みえ森づくりサポートセンター
(津市白山町二本木 3769-1 三重県林業研究所内 交流館)
- 講師 認定NPO法人 芸術と遊び創造協会
- 定員 20名(先着順)



写真は木育教材「水の船み木」

「森のせんせいスキルアップ講座[LEAF ローカルインストラクター編]」

LEAFは森林業界が森林産業の普及啓発のために開発したプログラムです。森林について多層的、複層的に知ることができるようにプログラムが文化的、生態学的、経済的、社会的な森林の役割について考える内容となっているので、スキルアップに最適な講座です。学校林や保育園などの森がある教職員の方、林業家の方、ご自分の活動フィールドのある方、フィールドで活動されている方、これからフィールド活動してみたい方にお勧めです。

(2日間連続講座です。)



- 日時 2月2日(土)13:00～20:00
2月3日(日)9:00～16:30
- 場所 吉田本家山林部及び嘸野
(度会郡大紀町滝原)
- ※宿泊は、
「語らいの里『嘸野』hanashino」です。
- 講師 LEAF ナショナルインストラクター
- 定員 10名(先着順)



*詳細・応募はサポートセンターへお問合せください



発行：三重県 編集：みえ森づくりサポートセンター
TEL:059-261-1223 FAX:059-261-4153 mail:miemori@zc.ztv.ne.jp
web <http://www.zc.ztv.ne.jp/miemori> facebook <https://www.facebook.com/miemoridukuri/>



MORI DUKURI NEWS 2018.12

拡大号

TOPICS /

「森のせんせいスキルアップ講座」
インタープリター編を行いました



KEEP 協会の講師から話を聞いたり観察したり自然を観る目、感じる心を養う

自然や自然素材を用いて、人と自然を楽しくつなげ、伝える
インタープリテーションの技法を学び、実践しました。



受講生の実践の様子

9月22日(土)に三重県林業研究所内にある交流館と樹木図鑑園において「森のせんせいスキルアップ講座[インタープリター編]」を開催しました。

この講座は森のせんせいに登録された方や森林の魅力をより洗練された技能で伝えたい方などを対象に開催しています。

講師には、公益財団法人キープ協会 環境教育事業部 増田直広主席研究員に来ていただき、楽しくも充実したインタープリテーションの技能を学びました。

午後には参加者が指導者と受講者にわかれて実践しました。学んだ技能は10～12月に開催する「森の学校」でも活かしていただけると思います。

「森の学校」を開催しました！

10月の「三重の森林づくり月間」に合わせ、県内7か所で「森の学校」を開催しました。

最終回の12月1日(土)は、三重県立みえこどもの城で開催される「みえ子ども森の学びサミット」に併せて実施します。たくさんのご参加お待ちしております！(開催の様子はホームページにも随時掲載しています。)



— pick up —

森づくり活動団体 「智積自然の会」 (四日市市)

みえ森づくりサポートセンターには、森林や木育に関するさまざまな知識や技術を持った方々が森のせんせいや森づくり活動団体として登録されており、県内各地域で森林環境教育・木育活動や森林整備活動を行って見えます。この「pick up」コーナーでは、森づくり活動団体の活動を紹介していきます。今回は、「智積自然の会」取材しました。

平成 11 (1999) 年 6 月に設立、現在 50 人の会員が活動中。会員は智積町民を中心とした有志メンバー。町・地域ぐるみで活動している団体です。
現在の会長は伊藤隆夫氏。
主な活動場所は、一生吹山(いっしょぶきやま)まで通じる約 8,000 m²の森林と、その谷合いの約 2,000 m²の休耕田を活かした初瀬ビオトープの谷(智積町 3359)。その場所でメダカの学校を設立当初から開校。
森づくり活動団体には平成 27 年 4 月 20 日登録。

○設立のきっかけ

活動場所一帯はまだ昔のままの自然があります。
『これを次の世代に残したい』
そういう心で智積自然の会が住民の手によって設立されました。

○ビオトープ作りと「智積養水」

地域の次世代にどのようにして智積町の豊かな自然を残し、伝えていくかということで、谷合いで休耕田となってしまった里山に昔のようにメダカが泳ぎ、自然の素晴らしさを感じながら子どもたちの遊び場となるビオトープを作ることから始まりました。「自然をできるだけ手を加えず、メダカの池にしよう」と住民の合意と協力が結集しました。
ビオトープ作りをするようになったのはこの他にももう一つのきっかけがありました。それは、「智積養水」です。

※智積養水

智積町付近には、鈴鹿山麓を源流とする三滝川^{かんだに}と金溪川^{やどう}、矢合川という 3 つの河川が町を挟んで北と南に流れていますが、町自体に水源はなく、菰野町の湧き水「蟹池」の水を分けてもらいながら平安時代の古来より水田を営んでいました。鎌倉時代には、水をもらい受ける灌漑用水路の敷設工事が計画されたとされています。この江戸時代以前よりある用水路が「智積養水」で、田畑を潤すと共に生活用水としても重要なものでした。

○「智積養水」と「立梅用水」

鈴鹿山麓の森のミネラル養分を豊かに含んだ伏流水を水源としていた智積養水ですが、高度経済成長期の昭和 40 年代にいわゆる環境汚染の一つとして川が汚れ、それを目にした自治会が中心となって養水を守る活動を始めました。

その活動が認められ、昭和 60 年に智積養水は環境庁の「全国名水百選」にも認定されました。この活動を勢和村(現在は多気町)土地改良区の皆さんが視察に来られ、交流が始まりました。旧勢和村には、国の登録記念物(世界の「かんがい施設遺産」登録)にもなっている大規模な用水路「立梅用水」が江戸時代からあります。

智積町の自治会が、旧勢和村を訪問した際にビオトープを造成した活動を見て、自分たちにも何かできないかと有志メンバーで立ち上げたのが「智積自然の会」の始まりだそうです。

○主な活動

- ・一生吹山まで通じる遊歩道の清掃や階段補修整備。
- ・隣接する竹林の伐採とチップ化。
①藪化して人が入るのも困難な竹林の除伐を進めています。
②伐採した竹は、チップにして景観保全に留意しています。
③チップー機は「みえ森と緑の県民税市町交付金」で四日市市が導入したものを活用しています。
- ・毎月 1 回(第 2 日曜日)を定例作業日とし、ビオトープやビオトープ周辺の道や森林の整備を実施。
- ・年末にもちつき大会の実施。
智積町たのし会(老人会)や智積子供会と一緒に実施。
- ・2 年に 1 度の一大イベント「メダカの学校・ちしゃくの自然ふれあいまつり」を開催。
ビオトープ内で育てたメダカの放流、ザリガニ釣り、地域の希少水生生物展示、泥んこ綱引き大会、活動内容のパネル展示などさまざまな催し物を実施。



○初瀬ビオトープの谷と「メダカの学校」

平成 11 年 6 月 23 日に活動フィールドに「初瀬ビオトープメダカの学校」が開校。里山遊びの経験豊富な大人たちが「森の教室」を開催。

このビオトープを作るときには、鈴鹿山麓研究学園都市近辺でトンボ池の管理を主な目的に発足し、自然保全活動をしている NPO「ちよっと自然」に協力していただき、メダカ池を造成することができました。
NPO「ちよっと自然」には「智積自然の会」のメンバーも一部参加しています。

↑メダカの放流。
↓泥んこ綱引き大会。いずれも今年の「メダカの学校・ちしゃくの自然ふれあいまつり」の様子。

綱引きの大賞には
智積米の進呈↓



智積町の川で見られる希少水生生物など

メダカ

ニホンウナギ

コイ

ドジョウ

タナゴ

モクズガニ